




松本病院

## 地域医療連携室だより

Matsumoto National Hospital


 松本病院  
 内科医長 松林 潔
 

鏡室での業務に加え、外来や病棟での診療があり、さすがに体が悲鳴を上げ、昨年の春頃に腰椎椎間板ヘルニアとなり、3日間立ち上がれない状態となりました。消化器科の病棟は3A病棟ですが、ここが以前整形外科病棟だったこともあり、腰痛の対処に詳しい看護師さんからやさしいアドバイスを受けられたことが幸いし、最悪の状況はなんとか乗り越えることができました。そのようなアクシデントがあってから、自分自身の体を改善しなければこれからの内視鏡は続けられないと考えました。今年から毎日の筋力強化と腰痛体操を欠かさず、腰への負担を軽減するための体重の減量を行いました。その成果があったのか、現在のところ腰の状態は良く、関係スタッフに御迷惑がかかることなく過ごせております。今年を鍛える年となりましたが、来年はさらに精神面を強化し困難な状況でも余裕を持った対処ができるように心がけたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

平成16年4月1日より松本病院消化器科医師として勤務することとなり、消化器内視鏡検査および治療に携わってきました。本年4月1日より内科医長となりましたが、勤務の内容はこれまでとほぼ変わりなく、内視鏡室において上部・下部内視鏡検査や内視鏡的粘膜切除術、ERCP、胃瘻造設、それから緊急のことが多いですが内視鏡的止血処置などを行っております。内視鏡をはじめから16年となりますが、この間に内視鏡の

世界は大きく変化しました。数年前から内視鏡的粘膜下切開剥離術(ESD)が行われるようになり、以前には内視鏡的切除の適応とは考えられなかった広範な病変を一括切除することが可能になりました。しかし、それだけ内視鏡医に課せられる負担は大きく、過酷な状況に追い込まれることも多々あります。広範な病変になれば、それだけ治療に時間を要し、治療困難例では6時間以上に及ぶこともあります。このような過酷な内視

## 松本病院の理念

- 患者様の立場や権利を尊重し、十分な説明と同意のもとに、患者様中心の医療を行います。
- EBMに基づいた医療を行うことにより、人の生命に関わる専門職として、質の高い医療を責任をもって提供します。
- 和とは連携である。職場の和のみならず、専門技術を総合的に連携させ、チーム医療や地域の医療連携を大切にします。
- チャレンジ精神を持ち、常に前進します。

# 開業医の先生紹介



## 渡辺 豊昭 院長 渡辺 肛門科 医院

り、松本病院の先生方、看護師ほかパラメディカルの皆様は、さらに過酷な献寄せが来ると思われますが、どうかこの難関を乗り越え、燃えつき、リタイアする事のないよう、お願いする次第です。

「一生懸命やれば、患者さんの三分の一は感謝してくれるだろう。」(この文章は某誌よりの借用)

この三分の一の感謝のため、共に頑張りましょう。



昭和56年8月より、松本市芳川村井町で肛門専科で開業しています渡辺です。開業当時、孤立無援のなか、貴院外科の牧内正夫元院長先生、岩浅武彦前院長先生方により、多くの患者さんを紹介して頂き、それ以後、徐々に来院者が増加してまいり、非常に感謝しております。また当院では手術不可能の癌の患者を貴院外科で、炎症性腸疾患患者等を貴院内科に紹介させて頂き、心よく引き受けて下さり、これまた感謝の念にたえません。

平成16年4月より長男、洋行が、横浜市松島病院(肛門専科の有名病院)での2年間の修練を終了し、副院長とし

て着任し、現在、小生と二人で診療に従事しております。洋行は、信州大学第二外科よりの派遣で、平成8年4月から同年9月末までの6ヵ月間、貴院外科でお世話になっておりますので、御存じの方もおられると思います。副院長の着任までは小生一人で、手術のみでしたが、着任後は、毎日午前中の大腸内視鏡検査、月、水の午後は便秘外来、直腸肛門機能障害に対して低周波治療、手術では従来の方法の他、最新の痔核硬化療法(ジオン局注)、内痔核に対するレーザー治療等も行ない、良好な結果を得つつあります。

昨今の医療事情の悪化によ

### 渡辺肛門科医院

〒399-0032

長野県松本市大字芳川村井町721-30

TEL : 0263-86-2016

FAX : 0263-57-2752



## 松本の歳時記

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 11月3日(土)  | 市民祭 (歩行者天国)   |
| 11月15日(木) | 七五三           |
| 11月18日(日) | 恵比須講 きんつばを食べる |
| 11月20日(火) |               |

### 最近の診療トピックス(5)

#### 前立腺がん

#### ～集団検診「推奨せず」に泌尿器科学会反論～

がんの治療は早期発見・早期治療が原則です。前立腺がんには、PSA（前立腺特異抗原）という前立腺に特異的な腫瘍マーカーがあり、前立腺がんの場合は上昇します（前立腺肥大症や前立腺炎など他の前立腺の病気でも上昇することがあり、そこが悩みの種です）。PSAは血液検査で測定できますので前立腺がん検診の有力な検査としてひろく行われてきました。現在、松本市や塩尻市でも実施されています。しかし、今年9月10日に厚生労働省がん研究助成金による「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班から「前立腺がんの対策型検診は推奨しない」という指針(案)が出されました。これに先立つ9月9日の読売新聞朝刊第1面に、この未確定指針(案)が掲載されました。ご自身が受けた検診が推奨されないとの新聞報道に驚かれた方もいると思います。この指針(案)に対し、日本泌尿器学会は反対しています。

- 1) 現在の前立腺がんスクリーニングはPSA（前立腺特異抗原）検査で行われていますが、スクリーニングの普及率は低く、依然として発見される前立腺がんの約3割は骨転移を伴うものであり、進行するまで見逃されている可能性が高い。また、将来前立腺がん罹患数は肺がん、大腸がんと並んで頻度の高い男性がんになると予測されている。そのような状況で、最も効果が期待される対策を講じるべきである。
- 2) 前立腺がん検診は最新の検査方法を用いた検診であるために、評価がいまだに分かれているのは事実だが、現在進行中の研究では、検診の有用性を示唆している。
- 3) 前立腺がん検診が普及した場合におこる過剰診断、過剰治療の危

(次頁)



## リレー形式



険性に対して、前立腺がんの治療は、年齢・病期・患者自身の社会的背景や価値観に合わせ様々な治療法の選択が可能であり、治療効果のみならず、QOL（生活の質）を考慮に入れた治療へと進歩している。

- 4) 日本泌尿器科学会は最新の研究結果を分析し、検診の受診による利益と不利益を広く住民に啓発した上で、50歳以上の男性受診希望者に対してPSA測定による前立腺がん検診を推奨する。

以上、学会の主な主張を示しましたが、私たちも、前立腺がんの早期発見・早期治療にPSA検査による検診は有用と考えます。その際には検診の目的や受診による利益と不利益などについてよく考えたうえで受診することが重要と思います。

## お知らせ


～松本病院でも前立腺がんの放射線治療（外照射）が可能に～

前立腺がんの治療は、手術・放射線療法・薬物治療・待機療法などが行われています。私たちは限局性前立腺がん（がんが転移してなく前立腺にとどまっている状態）に対し、手術を軸に治療してきましたが、このたび、CT装置の更新に伴い、10月22日より前立腺がんに対する放射線治療（根治目的の外照射）が可能となり、松本病院での治療選択肢が増えました。

これからも早期診断・体に優しい治療にむけて努力したいと思います。

泌尿器科医長 小宮山 齋

## 内視鏡検査のご案内

胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査等をご希望される施設(先生)は、 当院 地域医療連携室までご相談下さい。



ご利用をお待ちしております。

松本病院



# 新任医師紹介



い せ まみこ  
伊 勢 真美子  
循環器科医師  
専門：循環器内科  
外来：月、木  
趣味：洋裁

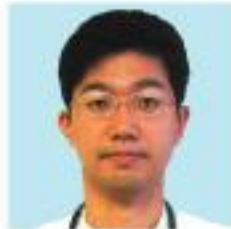
8月末から週2回の外来でお世話になっています。  
よろしくお願いいたします。



こ まつ すすむ  
小 松 哲  
外科医師  
専門：外科、乳腺内分泌  
外科  
外来：火

火曜日の専門外来を担当しています。  
よろしくお願いいたします。

くら たけんじ  
倉 田 研 児  
小児科医師  
専門：小児科一般、内分泌  
外来：月、水、金  
趣味：スポーツ、ガーデニング



地域の子供達の力になれるよう頑張りたいと思います。  
よろしくお願いいたします。

みな がわ すすむ  
皆 川 茜  
皮膚科医師  
専門：皮膚科  
外来：木  
趣味：ジョギング



偲大より週一回、外来をお手伝いさせていただきます。  
よろしくお願いいたします。



かな い とし ます  
金 井 敏 晴  
外科医師  
専門：乳腺、甲状腺外科  
外来：火  
趣味：スポーツ（球技）

丁寧な治療をこころがけております。

よろしく  
お願いします



## 小児科勉強会のお知らせ

日時 10月18日(木) 19:00~20:00  
場所 会議室

地域の皆様方のご参加を、お待ちしております。

小 児 科

## 糖尿病公開講座を終えて……

平成16年4月より地域と密着し、患者、患者の家族や地域住民を対象に、新しい知識を提供するため、各医療スタッフからの専門知識の普及の目的として、糖尿病公開講座を始めてから、今回で32回目、栄養士の講座内容としては、講義型を主に行なってきましたが、食事に対しての意識を高めるための方法として、目で見て、食べて、感じる事ができる、参加体験型が有効であると考え、昨年からは、ヘルシー弁当講座、食事バイキング講座、宅配弁当講座。今年度は、7月に、糖尿病患者の間食の対応についての講座(参加者約50名)などを行ないました。

10月1日には、糖尿病の食事ポイントを学ぶ、食事バイキング講座を開催し、糖尿病患者や家族、地域住民ら約50名の方が参加して、指示カロリーで栄養バランス良く、色合いも美しく、低糖で減塩に調理されたバイキング形式の食事を味わいながら食生活の改善点などを体験していただきました。

食事バイキングに入る前に、栄養士から、適正なエネルギーの確保や栄養のバランスのとりかた、又、3食規則正しくゆっくり食べる方法。献立の立て方と主食・主菜・副菜の選び方などの注意点について説明があり、会場には、12種類のメニューがテーブルの上に並べられ、参加者が好みの料理を取っていただきました。主食には、きのこ御飯やきのこそば、主菜には、さんまの塩焼きや鳥のホイル蒸し。副菜には、含め煮、田楽、酢の物、お浸し、サラダ、デザートなどを用意しました。普段はカロリー制限で自由に食事が取れない患者たちも楽しそうにあれこれ迷いながら料理を選んでいました。

今後も講義型と実践的方法を取り入れ、ニーズにあった指導方法を模索、実行し生活習慣病の予防や改善に取り組んで行きたいと考えております。

栄養管理室長 岡 茂

